



両国の高校生32名がインドネシアで再会し、交流します。
「日本 インドネシア ティーンエイジ アンバサダー
(高校生交流) 事業」を実施
「日本インドネシア国交樹立60周年記念事業」に認定

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、3月12日(月)から、日本とインドネシアの高校生が8日間の交流活動を通して親交を深める「日本 インドネシア ティーンエイジ アンバサダー (高校生交流) 事業」を実施します。

当財団は、柱となる3事業※のひとつに「諸外国との友好親善の促進」を掲げ、1990年より、アジアを中心とした国々と日本の高校生が互いの国を訪問し、交流する「ティーンエイジ アンバサダー」事業を行っています。

インドネシアとの交流は、2002年、2012年、2015年に続いて4回目となり今回を含めた当事業の参加国は18カ国、参加者は累計2,460名にのぼります。

この度の交流は、本年1月の「日本 インドネシア ティーンエイジ アンバサダー事業」日本招聘プログラムに参加したボゴール市のウムル クロ高校と筑波大学附属坂戸高校の生徒合計32名がインドネシアで再会し、「ティーンエイジ アンバサダー(小さな大使)」として、政府への表敬訪問や日本大使公邸での歓迎会で代表スピーチ等を行います。また日本の高校生は、バティック(ジャワ更紗)のろうけつ染めや伝統舞踊の体験、ホームステイ等を通じて、インドネシアの歴史・文化について学ぶほか、両国の高校生がボゴール農科大学にて、インドネシアの農業における病害をテーマにディスカッションを行い、農業問題について理解を深めます。

なお本年は、日本とインドネシアの国交樹立60周年にあたり、本事業は、日本インドネシア国交樹立60周年記念事業実行委員会より、「日本インドネシア国交樹立60周年記念事業」の認定を受けています。

当財団はこれからも、アジア各国の未来を担う若者の相互交流を通じ、両国の友好親善の促進に資する活動を続けてまいります。

【1月に日本で実施した「日本 インドネシア ティーンエイジ アンバサダー」の様子】



筑波大学附属坂戸高校の農場にて白菜を収穫



英語の授業で食の異文化について理解を深める

※ 3事業: 「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」

【プログラム概要】

1. 期 間：3月12日（月）～ 3月19日（月）
2. 実施地域：ジャカルタ、ボゴール
3. 参 加 者：日本（筑波大学附属坂戸高校）の学生 計16名
インドネシア（ウムル クロ高校）の学生 計16名
4. 主な行動予定：
 - 3月 12日（月）日本の高校生がジャカルタに到着
オリエンテーション
 - 3月 13日（火）JETROでの講義を受講
政府への表敬訪問及び質問会
在インドネシア日本大使公邸での歓迎会
 - 3月 14日（水）イオンモールガーデンシティ
インドネシア伝統舞踊体験
 - 3月 15日（木）バティックろうけつ染め体験
ボゴール農科大学でのディスカッション
 - 3月 16日（金）ウムル クロでの授業体験、ホームステイ
 - 3月 17日（土）ホームステイ
 - 3月 18日（日）ホームステイ、フェアウェルパーティー
 - 3月 19日（月）日本の高校生が帰国

ご参考

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブについて】

当財団は1989年、イオンの前身であるジャスコの誕生20周年を機に、「絶えず革新し続ける企業集団」として、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと設立されました。企業の業績にかかわらず継続的に活動するため、グループの主要企業が 税引前利益の1%を拠出し、「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」の3つを柱となる事業として、社会貢献活動を行っています。

※活動の詳細な内容はこちら (<https://www.aeon.info/1p/>) をご覧ください。



【インドネシアにおける社会貢献活動】

■アジアユースリーダーズ



インドネシア、ベトナム、マレーシア、タイ、日本、中国の6か国の次代を担う学生が一堂に会し、英語を共通言語として開催地の社会問題をテーマにディスカッションを行い、問題の改善策を現地の政府に提案します。また、多国間での議論を交わすことで、国際感覚を身につけるとともに、価値観の多様性についての理解を深めます。

■イオンスカラシップ（アセアン）事業

日本で学ぶアジアの私費留学生を対象とした給付型奨学金制度。各国の奨学生を対象に、定期的なセミナーの開催等、学生たちの未来へ向けた更なる成長を支援しています。将来、日本と各地域の国々をつなぐ架け橋となって活躍してほしいとの願いのもと、2006年より実施しています。また、アセアンでは、インドネシア、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、タイの5カ国で学ぶ優秀な大学生を対象に、各国での奨学金給付のほか、年間を通じた経済的支援を行っています。インドネシアでは、2012年より奨学金の給付を実施しています。



■ティーンエイジ アンバサダー（高校生交流）事業



日本と海外の高校生が、政府訪問などの「大使活動」、授業体験やホームステイなどの「交流活動」、文化遺産への訪問や、伝統文化を体験する「歴史・文化活動」を通じて、互いの国の歴史や文化を理解し、友好親善が深まることを目的に、1990年より行っています。2005年と2009年には同窓会を開催し、社会人となって世界各国で活躍する仲間たちが一堂に会し、再会しました。

■緊急災害復興支援

大規模災害により被災した方々が、日常生活を一日でも早く取り戻せるよう、復旧・復興を支援しています。

2006年に発生したジャワ島中部地震、2004年、2005年、2009年に発生したスマトラ島沖地震では、募金活動のほか、災害復興支援金の贈呈を行いました。



■インドネシアでの植樹活動



公益財団法人イオン環境財団が、1990年の設立以来ボランティアの皆さまとともに世界各地で植樹を行っており、インドネシアでは、ジャカルタ市北部の沼地に、2011年より3年間で、延べ5,000人の参加者とともに63,000本のマングローブを植樹しました。